

令和4年10月12日

報道機関各位

丹後織物工業組合

京都・京丹後市にて丹後織物の伝統の技を生かした作品を提案する  
『TANGO TEXTILE EXHIBITION／第73回丹後織物求評会』  
(10月18日～23日)開催のお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は丹後織物の振興に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、1300年続く絹織物産地に革命を起こした「丹後ちりめん」は1720年に誕生し、2020年に300年を迎えました。

この度、丹後ちりめんの産地である京丹後市において来る10月18日(火)から10月23日(日)に亘り、『TANGO TEXTILE EXHIBITION／第73回丹後織物求評会』を開催します。本年は「世界のテキスタイル産地を目指して -和装との融合-」をテーマとし、伝統ある丹後産地で織り継がれた匠の技の粋を集め、斬新かつ創造性に富む作品の数々を提案致したく存じております。

また「TANGO OPEN CENTER」のトライアル事業として、常設展示及び商談機能の運用を視野に入れ、求評会会期後も一定期間展示し、商談や一般公開を行います。

次代へ挑戦し続ける丹後の織物職人の技術、進化を続ける丹後産地のテキスタイルを是非ご覧ください。

今年はBtoB向け工房見学の実施、求評会会場へキッチンカー来場や丹後ちりめんを使用したワークショップなど、様々な催しが行われます。

つきましては、本イベントの趣旨をご理解賜り、開催についての広報をお願い申し上げますとともに、お忙しい中恐縮に存じますが、会場まで足をお運びいただき取材していただきますようお願い申し上げます。

敬具

---

■TANGO TEXTILE EXHIBITION 特設ページ

<https://tanko.or.jp/tte/>



---

《お問い合わせ先》

丹後織物工業組合 担当 TOC 事業課 西村  
(京都府京丹後市大宮町河辺 3188)

TEL : 0772-68-5302 FAX : 0772-68-5300

URL : <https://tanko.or.jp/>

E-mail : [info@tanko.or.jp](mailto:info@tanko.or.jp)

【TANGO TEXTILE EXHIBITION／第 73 回丹後織物求評会】

■日時 令和 4 年 10 月 18 日(火)～10 月 23 日(日) 6 日間

・第 73 回丹後織物求評会 審査会・展示商談会

10 月 18 日(火)・10 月 19 日(水) 午前 10 時～午後 5 時

取引先業者様などのご来場者による投票により審査を行います。

ご来場時はお名刺をご持参ください。

・オープニングセレモニー10 月 18 日(火) 午前 9 時 45 分～

産業振興プラン発表・第 10 期丹後きものクイーンお披露目

・展示一般公開・賞の発表 どなたでも来場可能です。

10 月 20 日(木)～10 月 23 日(日) 午前 10 時～午後 4 時

展示期間を通じた来場者によるリアル及びオンラインでの投票を行います。

■場所 丹後織物工業組合 特設会場（京都府京丹後市大宮町河辺 3188）

■企画展示：TANGO CREATION PLATFORM・絹友会・京丹後市×織物関連ブース

～丹後ちりめんのアップサイクル商品と継業バンクについて～

■特別企画：染織祭衣装 復元制作プロジェクト※・丹後ちりめん光のデジタルアート特別展示・一般公開中のご来場者とオンラインの投票により賞を決定（あなた好み特別賞・伊達男《ダンディズム》きもの賞）・開催期間中“キッチンカー”来場！（18 日・19 日・22 日・23 日のみ）・つまみ細工体験などワークショップ開催！（22 日・23 日のみ、お子様も可能な丹後ちりめんを使用したワークショップも準備）・ご来場特典：先着 20 名様／日 きぬもよふお試しセットプレゼント♪・きもの着用特典「和装で地域を元気に！きものでおでかけキャンペーン」参加中！

→<https://www.pref.kyoto.jp/t-no-shoko/news/kimonodeodekake.html>

■主催：丹後織物工業組合

■後援：経済産業省・農林水産省・京都府・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町・海の京都 DMO・一般社団法人日本絹人織織物工業会・京都織物卸商業組合・丹後原糸織物卸商業協同組合（順不同）

■協力：公益社団法人京都染織文化協会・京丹後市地域雇用促進協議会

※染織祭衣装 復元制作プロジェクト：昭和初期に挙行され日中戦争により短命に終わった、かつて京都四大祭りといわれた「染織祭」において、女性時代衣装行列のために制作された室町時代の復元時代衣装を、衣装の保全と技術継承を目的に、現代の職人により再制作を行いました。生地となる練緯は現代では継承が途絶えた絹織物ですが、丹後の織物技術を発揮し、織元 金重（京丹後市）で復元しました。本求評会では旧衣装（昭和 6～8 年制作）と新衣装（令和 4 年 3 月完成）をあわせて展示します。時代を超えて脈々と継承される染織技術の粋をご覧ください。

詳細はこちら→<https://www.fashion-kyoto.or.jp/orikyo/kouza/index.html>